

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果をふまえた指導改善策 【中学校・義務教育学校後期課程】

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

中学校第3学年・義務教育学校9年生の生徒

3 調査の内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学）
- (2) 生徒質問調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査）
- (3) 学校質問調査（学校における指導方法に関する取組みや学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査）

4 調査日

令和6年4月18日（木）

II 学力調査の結果

1 教科に関する調査結果（平均正答率）

	国語	数学
全国	58.1	52.5
広島県	58	52
府中市	62	54

2 調査の結果にみられる特徴（全国正答率を上回った特徴的な項目）

【国語】

【思考・判断・表現】話すこと・聞くこと

資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる
(市 74.9% 全国 68.5%)

【数学】

【思考・判断・表現】数と式

統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる
(市 49.6% 全国 41.8%)

3 調査結果にみられる課題及びその課題に対する改善策

【国語】

課題	課題に対する改善策
【知識・技能】 文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる （市 66.7% 全国 68.8%）	・「書く」以外の多様な学習方法を生徒に提示し、一人一人に合った学習方法を選択できるようにする。 ・読書活動を推進する等、たくさんの語句に触れる機会を設定する。

【数学】

課題	課題に対する改善策
【知識・技能】数と式 等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる （市 46.6% 全国 52.5%）	・等式変形の方法について、自分の考えた方法を表現させる活動を多く取り入れる。 ・多様な等式変形の問題に取り組ませる。

4 生徒質問調査の結果にみられる特徴（全国平均値を上回った特徴的な項目）

1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか （市 78.5% 全国 64.4%）※週3回以上と回答した生徒の割合

5 生徒質問調査の結果にみられる課題及びその課題に対する改善のポイント

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも低かった項目	改善のポイント
1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか （市 52.4% 全国 64.8%）	・探究的な学びのサイクルを意識した単元を構成する。 ・ことば探究科で学習するパラグラフの基本構造を他教科でも活用させる。 ・デジタル機器の活用も含め、自分の考え等の伝え方を選択できるようにする。